

2013年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

「さかな丸ごと探検ノート」を活用した学習プログラムの開発—家庭科における食品表示に関する学習での展開

■主任研究者 足立 己幸

■共同研究者 西尾 素子、河合あずさ

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】「さかな丸ごと探検ノート」（以下、「探検ノート」）の小学校における活用については、上原らの検討でその有用性が明らかになっている。一方、中学校における活用については、家庭科において「探検ノート」の内容を取り入れることによって、生徒の興味・関心を高めることができ、家庭科の授業目標と食育の目標に迫る効果的な授業の展開の可能性が確認されている。しかし、家庭科以外の教科、学級活動等で「探検ノート」を活用する機会をつくることは難しい現状がある。そこで、中学校における実践事例をふり返り、中学校における活用の可能性を探ることを目的とした。

【方法】共同研究者の1名である栄養教諭が実践した愛知県A市立A中学校での事例2例を取り上げた。1つは総合的な学習の時間、もう1つは課外活動（食育クラブ）である。実施したプログラムを整理し直すとともに、学習者である生徒の感想をまとめ、評価した。

【結果】2事例ともに、生徒はいきいきと活動していた。課外活動の前後に実施した質問紙調査結果からは、生徒たちが「魚」に対する興味を高めた様子が見えた。

【考察】「探検ノート」を活用することによって、中学生が自分と魚と環境のつながりを考えるきっかけとなり、意欲的に学ぶことができることを確認した。中学校のカリキュラムにおいて「探検ノート」活用の機会を増やすことは難しいかもしれないが、小さな実践の積み重ねが大切と考える。